

那覇空港滑走路増設事業

現場日記

第8号

サンゴ
移植～ピンク色に染まる夜の海～
移植したサンゴの産卵を確認しました。

移植サンゴの産卵の様子・・・環境保全措置の一環で移植した後、初めて産卵確認調査を実施



放出されたバンドル
※バンドル：複数の卵と精子の詰まったカプセル

水中カメラの設置状況・・・ミドリイシ属の一斉産卵時期（5～6月）に合わせて設置



10分間隔のインターバル撮影



今回撮影した移植サンゴは、水中ボンドで固定する方法で移植したもので、平成26年に移植してから約2年経過したものです。（当時の移植状況は[現場日記第4号](#)を参照）

移植したサンゴの周辺では、現在もスズメダイ科、ベラ科を中心とした多数の魚類などが観察されていることから、移植サンゴの産卵によって周辺でサンゴの再生が進むとともに、サンゴやその周辺に棲む海生生物の保全にも寄与するものと考えています。

沖縄総合事務局では、今後も引き続き、本事業海域の環境保全に向けて、各種取り組みを推進していきます。